

# LINKAI横浜金沢とは

## 「LINKAI横浜金沢」ロゴマーク

横浜市金沢区の臨海部は、1967年(昭和42年)根岸湾埋立事業第2期「ハ地区」の埋立工事から始まった横浜市による3つの埋立事業により、海から生まれた地域です。

この地域には、中小企業を中心とした産業集積地と、商業やリクレーション関連施設があり、約36,000人におよぶ人々が働いています。

2017年(平成29年)12月「金沢臨海部の活性化事業」により、地域で働く人、近隣の住民や市民の意見を取り入れて、同地区の名称を「LINKAI横浜金沢」と定め、ロゴマークを決定しました。

臨海部の大きな空、海から出づる太陽を描くことで、日出づる国、日本の地域であることを表しています。

海が近くにありながら、自然と緑を感じることもできる豊かな地域であることを表しています。



臨海部の波と波しぶきが、躍動感、賑わいをイメージしながら、手を取り合う、人と人のようにも見え、その手が円となることで、地域の団結や結束を表しています。

産業団地を象徴する建物のシルエット。様々な大きさの窓は、多様な業種を表します。

りんかい(LINKAI)の言葉は、2つの意味を持ちます。

**LINK:** 絆／つながり    **AI:** 合う／愛

この名称には、「多くの中小企業が集まり操業する、働く魅力のある地域に、人が集まり、共に将来へ進みたい(つなぎあい、えがくみらい)」という思いが込められています。

## 横浜市のビジネスエリア



## 横浜市のビジネスエリア「LINKAI横浜金沢」

「LINKAI横浜金沢」は、横浜市内の交通インフラが整備されている9つのビジネスエリアの1つ、「臨海南部工業地域」に所在し、金沢区の臨海部に位置しています。

この地域は1000社を超える中小企業が集積する日本でも有数の産業団地を形成しています。

## 「LINKAI横浜金沢」の産業団地及び商業エリア

「LINKAI横浜金沢」は、あらゆる業種が集積された鳥浜工業団地と、多くの団地組合が集まる金沢産業団地が所在し、中小企業の一大産業集積拠点です。また、鳥浜町や白帆地区には、多くの人々が訪れて賑わう商業地区があります。

### ○ 鳥浜工業団地

「LINKAI横浜金沢」の北側、鳥浜町及び富岡東の一部を含む工業団地であり、横浜市の根岸湾埋立事業により造成された、製造業を中心とした異業種約250社が集積する工業団地となっています。また鳥浜町には、地元の店舗やスーパーマーケットが集積された「BRANCH横浜南部市場」があります。

### ○ 金沢産業団地

横浜市の基幹事業、いわゆる「六大事業」の一つである金沢地先埋立事業により造成され、金沢区臨海部(幸浦1, 2丁目、福浦1, 2, 3丁目)国道357号線の海側エリアに約600社が集積する産業団地を形成しています。

### ○ 白帆地区(横浜ベイサイドマリーナ)

「横浜港港湾計画」における、金沢木材港を利用した「金沢地区マリーナ計画」により造成された準工業地域であり、三井アウトレットモールの商業施設及び日本最大級のマリーナ関連施設を有する海洋性レクリエーション拠点となっています。

